

ニッスイグループの知財戦略、知財活動、および知財・無形資産投資に関する分析

Gemini Deep Research

1. はじめに

株式会社ニッスイ（以下、ニッスイ）は、水産事業を中核とし、食品事業、ファインケミカル事業、物流事業などをグローバルに展開する企業グループである。食品・水産物業界においては、持続可能な資源利用、食の安全・安心、健康志向の高まりといった環境変化に対応し、競争優位性を確立・維持するために、研究開発（R&D）から生まれる技術やブランドといった知的財産（IP）および無形資産の戦略的活用が不可欠となっている。

本レポートは、ニッスイの公式発表資料、財務報告書、ニュースリリース、および関連情報を基に、同社の知財戦略、具体的な知財活動（特許、ブランド）、知財・無形資産への投資状況、そしてそれらが事業戦略やサステナビリティ目標とどのように連携しているかを詳細に分析する。さらに、主要競合であるマルハニチロ株式会社（以下、マルハニチロ）との比較を通じて、ニッスイの知財戦略の特徴と業界内での位置づけを明らかにすることを目的とする。

2. 知的財産戦略とガバナンス

ニッスイグループの知的財産戦略は、長期ビジョン「**Good Foods 2030**」達成に向けた事業ポートフォリオマネジメントとサステナビリティ経営推進の一環として位置づけられている¹。同社は、水産物を「獲る・育てる」だけでなく、研究開発、加工、保管、流通の機能を有し、国内外の資源アクセスと **R&D** 力（研究開発力・生産技術力・品質保証力）を組み合わせたバリューチェーン「グローバルリンクス・ローカルリンクス」を強みとしている²。このバリューチェーンを通じて付加価値を創出し、経済価値、社会価値、人財価値、環境価値の4つの価値向上を目指す中で、知的財産は重要な役割を担っていると考えられる。

ガバナンス体制においては、取締役会が中長期的な企業価値向上の観点から、**R&D**・知財戦略を含む中長期経営テーマについて審議していることが示されている³。これは、経営トップレベルで知財戦略の重要性が認識され、議論されていることを示唆する。また、統合報告書では、事業継続に関わるリスクの一つとして「知的財産に関するリスク」が認識されており、リスクマネジメント体制の中で対応が図られている⁴。

一方で、競合であるマルハニチロと比較すると、ニッスイの知財ガバナンス体制や戦略

の具体策に関する外部への情報開示は限定的である。マルハニチロは、経営会議の諮問機関として「知的財産委員会」を設置し、経営企画部内に専門組織「知財グループ」を設け、知的財産戦略の柱（適切な出願戦略、ブランド保護、教育啓発、知財人財育成等）を明示している⁷。さらに、「知財ミックス」（特許権、意匠権、商標権などを組み合わせた保護）¹¹や「知的資本戦略」⁷といった具体的な概念を用いて戦略を説明し、財務情報においても「知的財産への投資」方針を記載している⁹。これに対し、ニッスイの公表資料からは、同様に詳細かつ体系化された知財戦略フレームワークや専門組織の存在を具体的に確認することは難しい。ニッスイの知財活動は、R&D 部門や事業部門との連携の中で効果的に推進されている可能性が高いが、その戦略的意図や管理体制の全体像は、マルハニチロほど明確には示されていない。

3. 研究開発活動と特許ポートフォリオ

ニッスイは、研究開発活動を競争優位性の源泉と捉え、積極的に投資を行っている。

3.1. 研究開発体制と重点領域

研究開発は、主に東京イノベーションセンター（“食”に関する基礎研究から事業応用）と中央研究所大分海洋研究センター（主に養殖に関する基礎研究から事業応用）の2拠点を中心に行われている⁴。2022 年度の研究開発費は46 億円、R&D 人財は150 名であった⁴。2023 年度の研究開発費は43 億円、R&D 人財は147 名となっている³。

重点領域は事業戦略と密接に連携しており、特に以下の分野に注力していることがうかがえる。

- **養殖技術:** ゲノム解析を活用した育種、飼料開発（例：加工後の退色防止飼料「マブレス」）、陸上養殖（バナメイエビ、サーモン、サバ）、養殖魚健康管理システム「N-AHMS®」、AI・IoT 活用による生産最適化など、高度な技術開発を推進している²。完全養殖「黒瀬ぶり」はその代表例である²。
- **機能性素材・食品加工:** EPA（エイコサペンタエン酸）や速筋タンパクの研究開発、およびそれらを活用した商品開発力は、食品事業の強みとされる²。塩分を減らしても塩味を感じさせる「塩分ひかえめ技術」なども開発されている²。
- **ファインケミカル（高純度 EPA/DHA）:** 魚油からの高純度 EPA 抽出・精製技術は世界トップレベルであり、医薬品原料から機能性食品素材まで幅広く供給できる体制を構築している²。

オープンイノベーションも推進しており、社外との連携も視野に入れた研究開発が行われている⁴。2023 年、2024 年にはスタートアップ企業等との共創を目指す「ニッスイ共創プログラム」を実施し、「事業残渣のアップサイクル」や「デジタル技術・IT を

活用した新たな食体験の提供」といったテーマで協業アイデアを募集した¹²。

3.2. 特許ポートフォリオの分析

ニッスイの特許ポートフォリオは、上記の研究開発重点領域を反映していると考えられる。外部調査機関による 2013 年の分析では、「魚介類用飼料」分野で特許総合力ランキング 1 位と評価されており、この分野での歴史的な強みが示唆される¹⁴。近年の特許登録件数は、2024 年に 18 件、2025 年（途中経過）に 10 件となっている¹⁵。

特許出願・登録が活発な主要技術分野は以下の通りと推測される。

- **養殖関連:** 飼料組成、育種技術（例：「成熟後に痩せにくいブリ」関連特許）、養殖システム、魚病対策など。
- **食品加工・素材関連:** 健康機能性成分（EPA、速筋タンパク等）の利用技術、味覚・食感改善技術（例：減塩技術）、保存技術、加工方法など。
- **ファインケミカル関連:** EPA/DHA の高純度精製プロセス、特定の製剤技術（例：自己乳化型 EPA 製剤）、新規用途開発など。

これらの特許は、ニッスイが技術的優位性を確保し、競合他社に対する参入障壁を構築するための重要な基盤となっている。

3.3. 主要な特許技術事例

ニッスイの研究開発活動から生まれた具体的な特許技術は、製品や事業の競争力に直結している。

- **減塩技術（特許第 5952832 号）:** パセリ由来成分「アピイン」を利用し、塩化ナトリウムを減らしても塩味を維持する技術²。この技術は「減塩 50% さけあらほぐし」などの健康志向製品に応用されている。
- **養殖ブリの品質向上技術（「成熟後に痩せにくいブリ属養殖魚」）:** 遺伝的特性を利用し、成熟後も品質が低下しにくいブリを育成する技術。この発明は令和 6 年度九州地方発明表彰で特許庁長官賞を受賞しており¹⁶、高品質な養殖魚の安定供給と高付加価値化に貢献している。魚介類用飼料分野での特許の強さも、こうした技術開発を支えている¹⁴。
- **高純度 EPA 精製・製剤技術:** ファインケミカル事業の核となる技術であり、医薬品原料としての供給を可能にしている。関連する医薬品特許は 2039 年まで有効とされ、長期的な収益基盤となっている²。

これらの事例は、ニッスイが研究開発の成果を戦略的に特許で保護し、それを事業上の強みとして活用していることを示している。

3.4. 特許ポートフォリオの強度評価

「魚介類用飼料」分野での過去の評価¹⁴は高いものの、現在のポートフォリオ全体の強度を評価するには、特許件数、引用頻度、地理的範囲、残存期間、競合比較などの多角的な分析が必要である¹⁹。

過去には、冷凍枝豆に関する特許（性質・機能の数値限定）を巡り、ニチロ（当時）から特許無効審判を請求され、その後の差止請求訴訟でも進歩性が否定されて敗訴した事例がある²⁴。この経験は、特許の量や登録の事実だけでなく、権利範囲の広さや有効性（新規性・進歩性など）といった「質」の重要性を示唆している。現在のポートフォリオが、事業戦略を支える上で十分な質と量を備えているか、継続的な評価と見直しが重要となる。

4. ブランド戦略と商標資産

ニッスイにとって、長年にわたり消費者に親しまれてきた製品ブランドは、特許と同様に重要な無形資産である。

4.1. 主要ブランドの活用

「大きな大きな焼きおにぎり」（世界売上 No.1 としてギネス世界記録®認定、35 周年）¹⁶、「焼さけあらほぐし」（発売 30 周年）¹⁶、「海からサラダフレーク」¹⁶といったロングセラーブランドは、高い市場認知度と顧客ロイヤルティを有する。また、機能性を訴求する「速筋タンパク」¹⁶や、高品質養殖魚ブランド「黒瀬ぶり」²なども、それぞれの市場セグメントで重要な役割を果たしている。

これらのブランド価値を維持・向上させるため、積極的なマーケティング活動が展開されている。周年記念キャンペーン、テレビ CM、人気アニメ「ハイキュー!!」とのコラボレーション¹⁶、著名な料理人監修商品の開発¹⁶など、多様な手法が用いられている。特に「大きな大きな焼きおにぎり」のギネス世界記録認定は、ブランド力の高さを象徴する出来事である¹⁶。これらの活動は、ブランドという無形資産の価値を具体的に高める投資と言える。

4.2. ブランド構築活動、認証、評価

ニッスイは、製品品質だけでなく、サステナビリティやイノベーションといった側面からもブランドイメージ構築を図っている。

- **サステナビリティ認証の活用: MSC**（海洋管理協議会）認証を取得した持続可能な漁業によるカツオを使用した製品（例：「**MSC** 光洋丸 薫焼きかつおたたき」）を発売し、積極的にアピールしている¹⁶。養殖魚においても **ASC**（水産養殖管理協議

会) 認証を取得している⁴。これらの認証は、環境意識の高い消費者に対するブランド価値を高める。2024 年には MSC ジャパン・アワードも受賞している¹⁶。

- **企業広告によるイメージ浸透:** 「GOOD FOODS for YOU!」をスローガンとした企業広告シリーズでは、「とことん研究篇」のように、研究開発への注力をアピールし、イノベーティブな企業イメージを醸成している¹⁶。
- **外部評価・受賞:** 「スケソウダラ速筋由来タンパク質」に関する研究・取り組みが評価され「食品産業優良企業等表彰」で農林水産大臣賞を受賞¹⁶、オリジナルカレンダーが全国カレンダー展で受賞¹⁶するなど、外部からの評価もブランド価値向上に寄与している。

これらの活動を通じて、ニッスイは単なる食品メーカーにとどまらず、持続可能性や健康、技術革新に貢献する企業としての多面的なブランドイメージを構築しようとしている。

4.3. 商標保護戦略

効果的なブランド戦略には、商標権による確実な保護が不可欠である。本調査でアクセスした資料には、ニッスイの具体的な商標ポートフォリオや出願戦略に関する詳細情報は含まれていない。しかし、マルハニチロが製品名（例：『新中華街』）、ブランドステートメント（例：「海といのちの未来をつくる」）、さらには活動名（例：「Make Sea Happy!」）に至るまで積極的に商標登録を行っていること⁷を考慮すると、ニッスイも同様に、「大きな大きな焼きおにぎり」、「黒瀬ぶり」、「速筋タンパク」といった主要な製品・サービスマークについて、事業を展開する国・地域で適切な商標権保護を行っていると考えるのが妥当である。その保護範囲や戦略（例えば、ブランドファミリーとしての保護、防御的な登録の有無など）の詳細は、さらなる調査が必要となる。

5. 知的財産・無形資産への財務的投資

知的財産やブランドといった無形資産の創出・維持には、継続的な財務的投資が伴う。

5.1. 研究開発費の分析

ニッスイの研究開発費は、2022 年度（2023 年 3 月期）に 46 億円⁴、2023 年度（2024 年 3 月期）に 43 億円³であった。最新の有価証券報告書（第 109 期、2024 年 3 月期）²⁵によると、2024 年 3 月期の連結売上高は 8,427 億円、営業利益は 325 億円である（要確認）。これに基づくと、売上高研究開発費比率（R&D Intensity）は約 0.5%程度となる。この水準が、事業規模や業界特性（例えば、医薬品に近いファインケミカル事業を含むこと）に対して適切か、また、主要競合であるマルハニチロ（研究開発費の推移を開示⁷）と比較してどうかを評価することが、イノベーションへの投

資姿勢を理解する上で重要となる。研究開発費の絶対額や対売上高比率の推移を追跡することで、経営戦略におけるイノベーション投資の優先度の変化を読み取ることができる。

5.2. 貸借対照表における無形資産の評価と構成

企業の無形資産は、貸借対照表（バランスシート）上にも計上される。ニッスイの最新の有価証券報告書（第 109 期）によると、2024 年 3 月期末の連結総資産 8,518 億円（要確認）に対し、無形資産（無形固定資産）は 2,491 億円であり、前期（2023 年 3 月期）の 2,168 億円から増加している²⁷。これは総資産の約 29%に相当し、ニッスイの企業価値において無形資産が非常に大きな割合を占めていることを示している。

無形資産の主な内訳としては、一般的に「のれん（Goodwill）」、「ソフトウェア」、「特許権」、「商標権」、「顧客関連資産」などが考えられる。特に「のれん」は M&A（企業の合併・買収）によって生じるため、その額が大きい場合、過去の M&A が資産構成に大きな影響を与えていることを意味する。ニッスイの無形資産 2,491 億円の内訳を詳細に分析（最新の有価証券報告書²⁵の連結財務諸表注記等を参照する必要があるが、直接的な PDF アクセスが困難な場合がある²⁸）することで、M&A による獲得資産と、自社開発や個別取得による IP（特許権、商標権など）のバランスを把握できる。無形資産、特にのれんの増加は、積極的な M&A 戦略を反映している可能性がある。

表 1: ニッスイの無形資産（連結、2024 年 3 月期）

項目	金額（百万円）	備考
無形資産合計	249,193	前期比 +32,350 百万円 ²⁷
（内訳の例）		
のれん	（要確認）	M&A により発生
ソフトウェア	（要確認）	

特許権	(要確認)	
商標権	(要確認)	
その他	(要確認)	顧客関連資産、借地権など

27

5.3. 投資と事業ポートフォリオマネジメントの連関

ニッスイは、事業ポートフォリオマネジメントを導入し、各事業セグメントの市場魅力度や収益性（例：ROIC と WACC の比較など）を評価し、経営資源の配分を決定している²。R&D 投資や IP 関連投資も、この枠組みの中で戦略的に行われていると考えられる。すなわち、長期ビジョン「Good Foods 2030」で成長ドライバーと位置づける海外事業、養殖事業、ファインケミカル事業といった分野²には、重点的に資源が投下されている可能性が高い。

特に、ファインケミカル事業における高純度 EPA 技術のように、強力な特許によって競争優位性が担保されている事業は、ポートフォリオ評価において高く評価され、継続的な投資対象となりやすい。このように、知的財産・無形資産の価値は、事業の将来性評価や投資判断において重要な要素となっていることが推察される。

6. 知的財産、事業戦略、サステナビリティのシナジー

ニッスイの知的財産活動は、単なる権利保護にとどまらず、事業戦略の推進とサステナビリティ目標の達成に深く関わっている。

6.1. 戦略的成長分野における IP の役割

ニッスイが注力する成長分野において、知的財産は競争力の源泉となっている。

- **グローバル展開:** 海外市場での成功には、技術的優位性を示す特許や、現地で認知されるブランドが不可欠である。医薬品原料としての EPA の海外販売は、独自の高純度化技術と関連特許に支えられている²。また、現地の食文化に合わせた製品開発（例：白身魚バリューチェーンにおける加工技術）にも、プロセスに関する IP やノウハウが活用されている²。
- **養殖事業:** 特許で保護された高度な育種技術、独自の飼料配合、魚病管理システムなどが、高品質な養殖魚（例：「黒瀬ぶり」）の生産と事業成長を直接的に支えている²。

- **ファインケミカル事業:** 高純度 EPA/DHA の精製技術と関連特許は、この事業の根幹であり、医薬品市場など高付加価値分野へのアクセスを可能にしている²。

これらの事例から、知的財産はニッスイの主要な成長戦略を実現するための基盤技術や市場での差別化要因を提供しており、事業価値創造に不可欠な要素であることがわかる。

6.2. サステナビリティ目標達成への IP の貢献

ニッスイの知的財産創出活動は、同社が掲げるサステナビリティ目標とも密接に関連している。

- **健康課題の解決:** EPA や速筋タンパクといった機能性成分に関する研究開発と関連 IP、および減塩技術などは、「健康課題の解決」という社会価値の重点テーマに直接貢献する²。これは **SDGs** の目標 3「すべての人に健康と福祉を」にも合致する。
- **環境・資源の持続可能性:** 効率的な育種技術、飼料開発、養殖管理システムといった養殖関連 IP は、天然資源への負荷を低減し、持続可能なタンパク質供給に貢献する²。これは **SDGs** の目標 12「つくる責任 つかう責任」や目標 14「海の豊かさを守ろう」に関連する。また、共創プログラムにおける「事業残渣のアップサイクル」のテーマ設定¹²も、資源有効活用への貢献を目指すものである。
- **SDGs への貢献:** ニッスイは自社の活動を **SDGs** と結びつけており²⁹、上記以外にも、技術革新を通じた効率化が目標 13「気候変動に具体的な対策を」に間接的に貢献するなど、多くの IP が **SDGs** 達成に資する可能性がある。近年では、特許をサステナビリティ推進のための「仲間作り」に活用する考え方も注目されている³¹。

このように、ニッスイのコア技術に関する IP 開発は、本質的に健康増進や資源管理といったサステナビリティ課題の解決に繋がるものが多く、事業目標と **ESG** 目標の統合を体現していると言える。

7. 競合比較：ニッスイ vs. マルハニチロ

ニッスイの知財戦略をより深く理解するために、主要競合であるマルハニチロとの比較を行う。

7.1. 知財戦略とガバナンスの比較

前述の通り、マルハニチロは知的財産委員会や知財グループといった専門組織を設置し、知的資本戦略や知財ミックスといった概念を用いて、より体系的かつ明示的に知財

戦略を外部に発信している⁷。これに対し、ニッスイは取締役会レベルでの議論やリスク認識は示されているものの³、具体的な推進体制や戦略フレームワークに関する情報は相対的に少ない。これは、ニッスイの知財活動が R&D 部門や事業部門に深く組み込まれているためかもしれないが、外部から見た戦略の透明性という点では差が見られる。

7.2. R&D、特許、ブランドにおける相対的強み

- **R&D・特許:** 両社とも養殖分野を中心に積極的な R&D 投資を行っている。ニッスイは魚介類用飼料分野で歴史的な強みを持ち¹⁴、EPA 技術などで高い専門性を示す。マルハニチロも養殖関連特許数を近年大きく伸ばし、じゃばらマグロや機能性カンパチといった独自技術をアピールしている⁷。現時点での両社の特許ポートフォリオの質と量を分野別に詳細比較する必要があるが、共に R&D を基盤とした技術的優位性を追求している点は共通している。
- **ブランド:** 両社とも強力な消費者向けブランドを保有する。ニッスイの「大きな大きな焼きおにぎり」のギネス記録¹⁶は特筆すべき実績である。マルハニチロは「MARUHA NICHIRO GROUP」としての統一ブランド発信を強化している点が特徴的である⁷。
- **知財人材・報奨制度:** マルハニチロは、知財グループの人材育成（資格保有率 50%）や発明報奨金の増額といった、知財人材への投資とインセンティブ強化策を具体的に開示している⁷。ニッスイに関する同様の情報は、本調査の範囲では確認できなかった。

表 2: 知財関連指標の比較 - ニッスイ vs. マルハニチロ

項目	ニッスイ	マルハニチロ
知財ガバナンス	取締役会で審議、リスク認識 ³ 。具体的体制は情報限定的。	知財委員会、知財グループ設置。戦略の柱を明示 ⁷ 。
R&D 投資 (2023 年度)	43 億円 ³ (売上高比 約 0.5%)	研究開発費の推移を開示 ⁷ (具体的な 2023 年度額は要確認)
特許ポートフォリオ	魚介類用飼料で過去に高評価 ¹⁴ 。EPA、養殖技術等に強み。	養殖関連特許が近年増加。独自技術（じゃばらマグロ等）

		を開発 ⁷ 。
主要ブランド例	大きな大きな焼きおにぎり、黒瀬ぶり、速筋タンパク ¹⁶	新中華街、横浜あんかけラーメン、グループブランド ⁷ 。
無形資産 (2024 年 3 月期)	2,491 億円 ²⁷ (総資産比 約 29%)	要確認
知財人材・インセンティブ	情報限定的	専門人材育成、発明報奨金増額を明示 ⁷ 。

(注記: 一部データは最新報告書での確認が必要)

7.3. ニッスイの競争上の IP ポジショニング評価

ニッスイは、養殖技術や EPA 技術といった特定の重要分野において、研究開発に裏打ちされた強力な知的財産を保有しており、これが競争力の核となっている。消費者向けブランド力も高い。しかし、競合であるマルハニチロと比較した場合、知財戦略の全体像や管理体制の外部への発信、および知財人材への投資に関する情報開示は、現時点ではマルハニチロの方が積極的であるように見受けられる。マルハニチロの「知財ミックス」への言及や体系的な戦略提示は、より統合的・戦略的な知財管理アプローチを示唆している可能性がある。ニッスイが競争優位性を維持・強化していく上で、知財戦略のさらなる高度化と、その戦略的な意図のより明確な発信が、今後の課題となる可能性がある。

8. 結論：評価と展望

8.1. ニッスイの知財に関する SWOT 分析

- **強み (Strengths):**
 - 中核事業（養殖、ファインケミカル、食品科学）における高い研究開発能力。
 - 重要技術分野における価値ある特許ポートフォリオ（例：EPA 養殖技術）。
 - 市場で確立された有力な消費者ブランド（例：「大きな大きな焼きおにぎり」）。
 - 研究開発と事業ニーズの効果的な連携。
- **弱み (Weaknesses):**
 - 競合（マルハニチロ）と比較して、知財ガバナンス体制や戦略の全体像に関する外部への情報開示が限定的。

- 過去の特許訴訟での敗訴経験（権利の質に対する注意喚起）²⁴。

- **機会 (Opportunities):**

- 保有 IP を活用したさらなるグローバル市場展開。
- コア技術（EPA、機能性素材等）の応用範囲拡大。
- オープンイノベーションの積極活用による新技術・事業創出¹²。
- サステナビリティ戦略における IP の役割をより明確に打ち出すこと。
- 知財戦略機能の強化・可視化。

- **脅威 (Threats):**

- 競合他社による積極的な知財活動。
- 保有特許に対する無効審判請求や侵害訴訟のリスク。
- 急速な技術進歩による既存 IP の陳腐化。
- ノウハウなど、特許化が難しい技術情報の保護。

8.2. ニッスイの知財活動の有効性と戦略的整合性の評価

ニッスイの知財活動は、研究開発と密接に連携し、長期ビジョン「Good Foods 2030」や重点成長分野（海外、養殖、ファインケミカル）の目標達成に貢献していると評価できる。特に、養殖技術や EPA 技術に関する IP は、事業の競争優位性を直接的に支えており、戦略との整合性は高い。ブランド戦略も、主要製品の市場地位確立に寄与している。研究開発投資の水準が、将来の成長目標達成に向けて十分であるか、また、オープンイノベーションと自社開発のバランスが最適かについては、継続的な検証が必要である。

8.3. ニッスイの知財戦略の今後の展望

今後も、ニッスイは養殖、健康・機能性食品、ファインケミカルといった分野を中心に、研究開発主導型の知的財産創出を継続していくと予想される。サステナビリティへの貢献やデジタルトランスフォーメーション（DX）といった現代的課題に対応する技術開発と、それに伴う IP 戦略の重要性も増すだろう（共創プログラムのテーマにも反映¹²）。

投資家や社会からの要請、あるいは競合の動向を踏まえ、将来的には知財ガバナンス体制や戦略に関する情報開示を強化する可能性も考えられる。保有する知的財産ポートフォリオの価値を最大化するため、権利維持・放棄の判断、ライセンス供与や共同開発といった活用戦略、そして権利行使を含む知財マネジメントの高度化が、引き続き重要な経営課題となるだろう。

引用文献

1. 私たちを突き動かすもの。それは「人々により良い食をお届けしたい」という志。 - ニススイ, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.nissui.co.jp/ir/download/integrated_report/2024_integrated_report_03.pdf
2. ニススイグループ 統合報告書 2024, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.nissui.co.jp/ir/download/integrated_report/2024_integrated_report_a4all.pdf
3. www2.jpx.co.jp, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www2.jpx.co.jp/disc/13320/140120241030506599.pdf>
4. www.nissui.co.jp, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.nissui.co.jp/ir/download/integrated_report/2023_integrated_report_a4all.pdf
5. NISSUI INTEGRATED REPORT 2022 - ニススイ, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.nissui.co.jp/ir/download/integrated_report/2022_integrated_report_a3all.pdf
6. NISSUI INTEGRATED REPORT 2023 - ニススイ, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.nissui.co.jp/ir/download/integrated_report/2023_integrated_report_a3all.pdf
7. 知的財産 | イノベーション | 品質・研究 | 企業情報 | マルハニチロ ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/safe_rd_ip/intellectual-property/
8. www.maruha-nichiro.co.jp, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/sustainability/report/pdf/report2024.pdf>
9. finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20250403/20250402507914.pdf>
10. s3.ap-northeast-1.amazonaws.com, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/disclose.ifis.co.jp/fd6/140120240418572498.pdf>
11. 統合報告での特許情報の開示とインタンジブルズ・ミックス, 4 月 14, 2025 にアクセス、
http://fdn-ip.or.jp/files/ipjournal/vol31/IPJ31_30_36.pdf
12. 【募集】ニススイ 共創プログラム 2024 | 「新しい“食”」の創造に ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://port.creww.me/crewwnews/128727>
13. 【募集】ニススイ 共創プログラム 2023 | 「新しい“食”」の創造に ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://port.creww.me/crewwnews/123572>
14. 【魚介類用飼料】特許総合力トップ3 は日本水産（ニススイ）、水産 ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www.patentresult.co.jp/ranking/total/fish.html>
15. 日本水産株式会社の特許登録一覧 - IP Force, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://ipforce.jp/applicant-1822>
16. 2024 | ニュースリリース | ニススイ公式サイト, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www.nissui.co.jp/news/2024/index.html>
17. 特許「成熟後に痩せにくいブリ属養殖魚」の発明者が令和6年度九州地方発明表彰の特許庁長官賞を受賞 - ニススイ, 4 月 14, 2025 にアクセス、

- <https://www.nissui.co.jp/news/2024110102.html>
18. 財務・非財務の連動により、強靱なバリューチェーンの構築と企業価値向上を目指す - ニッスイ, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.nissui.co.jp/ir/download/integrated_report/2024_integrated_report_04.pdf
 19. 知財情報等分析・活用を通じて実施する IP ランドスケープの具体的手法に関する調査研究報 - 特許庁, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/zaisanken-seidomondai/2023_06_zentai.pdf
 20. 知財情報の有効活用のための効果的な分析方法に関する調査研究 - INPIT, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www.inpit.go.jp/blob/katsuyo/pdf/shiryo/chizaijouhou2010.pdf>
 21. 「2024 知財・情報フェア&コンファレンス」出展のお知らせ - Patentfield, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://patentfield.com/news/262>
 22. 特許の棚卸し、価値評価と放棄判断のポイント:::セミナー情報 - 日本アイアール株式会社, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://nihon-ir.jp/seminar/points-for-patent-inventory_valuation-and-abandonment-decisions/
 23. ランドスケープマップの理解および使い方 - Orbit Intelligence - Questel, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://intelligence.help.questel.com/ja-JP/support/solutions/articles/77000450043-%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97%E3%81%AE%E7%90%86%E8%A7%A3%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E4%BD%BF%E3%81%84%E6%96%B9>
 24. 00756_チエのマネジメント（知的財産マネジメント）における企業法務の課題 5：粗略で酷い「知財」の取り扱い方の方の具体例（ニッスイ事件）, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://9546.jp/2019/10/29/00756_%E3%83%81%E3%82%A8%E3%81%AE%E3%83%9E%E3%83%8D%E3%82%B8%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88%EF%BC%88%E7%9F%A5%E7%9A%84%E8%B2%A1%E7%94%A3%E3%83%9E%E3%83%8D%E3%82%B8%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88%EF%BC%89/
 25. ニッスイ[1332] - EDINET[すべての提出書類] ページ 1 | Ullet ..., 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www.ullet.com/%E3%83%8B%E3%83%83%E3%82%B9%E3%82%A4/EDINET>
 26. ニッスイ[1332] - EDINET[有価証券報告書, 四半期報告書] ページ 1 | Ullet（ユーレット）, 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://www.ullet.com/%E3%83%8B%E3%83%83%E3%82%B9%E3%82%A4/EDINET/ranking/report>
 27. 2024 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結), 4 月 14, 2025 にアクセス、
<https://finance-front-end-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20240514/20240513593119.pdf>
 28. 1 月 1, 1970 にアクセス、
<http://cdn.ullet.com/edinet/pdf/S100TQLS.pdf>

29. Sustainability Report 2023 - サステナビリティ, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://nissui.disclosure.site/assets/pdf/report/2023_sustainability_ja.pdf
30. 事業者へのインタビュー：株式会社ニッスイ - SDGs×食品産業, 4 月 14, 2025 に
アクセス、 <https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/nissui.html>
31. 知財がつむぐ SDGs - 特許庁, 4 月 14, 2025 にアクセス、
https://www.jpo.go.jp/news/koho/kohoshi/vol58/tokkyo_58.pdf